板書例

4

ねずみを見て

・ねずみを見ての直接の感想
ねずみ＝必死に逃げ回る（＝「動作の表情」）
→「自分は寂しい嫌な気持ちになった。」

※ここでは同時に「静かないい気持ち」にはならない。

⇦

主人公は死ぬ前の動騒をくりひろげるのを見て、死を「寂しいが、同時に静かないい気持ちのもの」から「寂しい嫌な苦しみと、その後の静かさ」というように考え直している。

・ねずみを見て連想したこと
自分がけがをしたときのことを連想

←

両方（「気分で願う」＝静かな死と、「実際」＝死ぬ前のねずみのような動騒）が本当。

⇦

終始静かな死を迎えようと、終始ねずみのように騒ごうと、「どちらでもよ」く、「それはしかたのないこと」と考える。